

はじめに

瀬戸内圏は古くから海上交通の要衝の地であり、日本文化の源ともいえます。香川大学は、こうした瀬戸内圏の中核都市として発展してきた四国の高松にあって、地域の「知の総合拠点」の形成を使命としています。

本学では古くから、瀬戸内海の赤潮研究、ため池の研究、産業廃棄物対策、遠隔医療などの優れた地域に根ざした研究が続けられてきました。そこで、瀬戸内圏の諸課題を解決するべく調査研究を行うとともに、地域の財産である瀬戸内圏が育んできたその風土や豊かな環境を保全し、継承させ、発展させるために、「瀬戸内圏研究センター」が平成21年3月1日に設立されました。

当該センターは瀬戸内圏研究プロジェクト（海と水のグループ：干潟を含めた浅海域の生態系研究など、文化・観光・歴史グループ：瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造など、医療グループ：瀬戸内圏における遠隔医療や生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想など）の研究推進支援、行政や企業等との協議会および活動団体や地域住民等の意見からの新たな課題の発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等による研究成果の公開、行政や企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化ならびにそれらの発信などを遂行し、地域への貢献を第一の目標に掲げて事業を展開しています。

本報告書では、研究開始から7-8年を経過した平成26-27年度までのセンターの成果と活動について報告いたします。この間における海・水、文化・観光・歴史、医療の各グループの地域貢献に関係する主要な成果は以下のように整理できます。

海と水のグループでは、干潟・藻場の重要性や機能。香川県沿岸で問題になっているノリの色落ち問題。カキの不作、養殖場の環境悪化、漁獲量の低下、陸域の水質改善などの研究を実施しております。

文化・観光・歴史グループでは、島の文化や観光資源、過疎化の問題。瀬戸内地域の歴史や遍路文化など対象に研究をしております。特に最近はこれらの研究を総合して、地域の繁栄の方策を探るといような研究も実施しています。

地域医療グループでは、情報通信技術を活用した香川遠隔医療ネットワーク K-MIX を開発し、医療サービス向上、医療の効率化などに取り組んでいます。その中で香川県に多くある離島の医療についての研究も実施しています。最近では、これらの活動が新興国から注目されており、新興国との交流も活発化しています。

今後とも瀬戸内圏研究センターへの暖かい御支援をよろしく願いいたします。